

にじ

高知医療センター 開院10周年企画
～診療現場の「今」と「これから」～

第3回 高知医療センター
がんセンター …… P2~P5

第30回 日本救急医学会
中国四国地方会を終えて …………… P6

■ 「にじ」及び「ホームページ」に関するアンケート結果 …………… P7

■ 高知医療センター・イベント情報 …………… P8

7

JULY 2014 Vol.105



5月2日、高知医療センターは公益財団法人日本医療機能評価機構の二回目の認定を受けました。

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —



がんセンター運営委員会のメンバー

第3回 高知医療センターがんセンター

文責：高知医療センター がんセンター長 森田 荘二郎

はじめに

高知医療センターのセンター機能の中で「総合周産期母子医療センター」、「循環器病センター」、「救命救急センター」、「こころのサポートセンター」は、関連診療科がある程度特定され、院内でも外来・入院フロアが整備されています。したがって、形として認識しやすいのですが、「がんセンター」は、関連診療科も多く、しかも外来・入院フロアが各診療科で分散しており、さらに各診療科が「がん患者さん」のみを診療の対象としているわけではありません。

何度か高知医療センターの「がんセンター」は何処にあるのですが、と聞かれたことがあり

ますが、現時点ではあくまでも診療機能としての役割しかなく、形としては存在していないため、ここが「がんセンターです」としてお見せできる実体がないのが悩みでした。しかし、診療機能としては、手術、抗がん剤治療、放射線治療の全ての分野において、地域がん診療連携拠点病院として、高知県のがん治療の中核を担ってきたと言っても過言ではないと思います。

本稿では、高知医療センターが開院10年を迎えたことを記念して、開院から現在までの「がんセンター」の歩みを振り返ってみたいと思います。

がんセンター 10年の歩み

当院は、2005年3月1日、高知県立中央病院と高知市立市民病院とが統合し開設されました。統合前の高知県立中央病院では、消化器がんを中心としたがん診療、特に外科的切除、動注リザーバーや中心静脈リザーバーを用いた外来化学療法に積極的に取り組み、2002年8月、「がん診療拠点病院」に指定されていました。

高知医療センター開院後は、堀見忠司名誉病院長が初代「がんセンター長」としてがん診療の礎を築き、地域連携を基本にしたがん診療の充実を推進してきました。2006年4月からは、放射線療法科森田荘二郎が2代目「がんセンター長」に就任しました。

2006年6月、「がん対策基本法案」が制定され、「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」が定められたことを受けて、当院でもがんセンター運営委員会を中心に、外来化学療法室の充実、「抗癌剤レジメン」の整理・統一化、セカンドオピニオン外来の開設、がん相談窓口（現在は「がん相談支援センター」）の設置、緩和ケアチームの設立、院内がん登録の開始、一般市民および医療従事者向けのがんに関する公開講座・特別講演会開催と、順次体制を整え、2008年2月、高知県で初めて「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。

その後も、がんセンター HP の開設、がん診療に係る各種パンフレット・リーフレット、小冊子類の作成、患者図書室へがん関連コーナーの設置、2008年11月には高知医療センターがん患者さんの会「池の会」が設立され、院内でのがん患者さんのためのサロン「池の会」を開設しました。2009年6月からは、がん緩和ケア専従看護師（がん看護専門看護師）を配置し、緩和ケアチームの強化をはかり、2011年4月からは、緩和ケア内科医が赴任し、緩和ケアチームの専従医になると共に緩和ケア外来を開設しました。

2010年7月には、診療科の垣根を越えて横断的に、患者の治療方針について最良の方法を提供できるよう、メディカルスタッフも参加する「がんサージカルボード」を開設しました。がんサージカルボードのメンバーを中心に、新しいがん治療の方法を研究する国立がん研究センターを主幹とする共同研究グループ JCOG (Japan Clinical Oncology Group) にも、食道がん、大腸がん、胃がん、胃がん内視鏡治療グループとして参加しています。

2014年度からは新たに高知県社会保険労務士の協力を仰ぎ、がん患者さんのための「就労支援」に取り組んでいく体制を整備するように準備を進めています。



緩和ケアチーム



前列左から3人目緩和ケア内科原一平医師、後列左から2番目がペインクリニック科青野寛医師、左から3番目が北添可奈子がん看護専門看護師、その右隣が池田久乃がん看護専門看護師をコアメンバーに、薬剤師、管理栄養士、MSW、理学療法士など16名で構成されています。週2回の病棟ラウンドと、週1回のカンファレンスを行っています。



外来化学療法室のスタッフ



写真左端、消化器内科根来裕二医師を中心として看護師 5 名、看護助手 1 名が通院で抗がん剤治療を行う患者さんのお世話をしています。開院前は 3 ベッドが予定されていましたが、外来化学療法の増加に伴い、開院当初は外来注射処置室 8 ベッドと共になんとか 13 ベッドでスタートしました。しかし、その後右肩上がり患者数が増加してきたため、2009 年からは注射処置室を分離し、21 ベッド全てを外来化学療法として使用し現在に至っており、新がんセンターでは 35 ベッドに増床を予定しています。

当院でのがん診療の特徴

当院でのがん診療は、豊富な症例数を誇る全身麻酔下手術、内視鏡下手術、および高知県で唯一専従の「がん薬物療法専門医」を配置した外来化学療法を特徴としています。2008 年の 5 大がんの手術（全身麻酔）症例数は、胃がん 135 件、大腸がん 171 件、肺がん 61 件、肝臓がん 61 件、乳がん 19 件、その他に膵臓がん 29 例、食道がん 13 件、前立腺がん 16 例、子宮がん 29 例でした。手術以外の治療としては、外来化学療法 5,054 件、放射線治療計画総 347

件、肝動脈塞栓術 335 件等であり、いずれも手術と共に年々増加しています（診療データの詳細については HP をご参照ください）。

当院のがん診療における特記すべき点は、通常はがん診療を行わない診療科とも密接に連携し、「がん」の全身的な管理を行うことができる点、そして、いつでも、どのような状態でも oncology emergency に対応できる「救命救急センター」を要している点があげられます。

今後の課題

がん診療連携拠点病院の認定要件が年々厳しくなる中で、拠点病院の認定を維持するためには、院内体制整備はもちろんのこと、配置すべき専門職種をどのように育成していくか、あるいは確保するかについて考えていかなければなりません。特に放射線治療専門医、がん薬物療法専門医、精神的ケアを専門に行う精神・神経科医師、緩和ケア医は全国的にも人材不足が問

題となっています。さらに、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、がん看護専門看護師、がん化学療法認定看護師、がん放射線治療認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん専門薬剤師、院内がん登録に関わる診療情報管理士、がん相談員、MSW、臨床心理士等は継続して配置ができるよう研修、採用システムを構築していく必要があります。



※特別に許可を得て撮影しています。



がん患者会 サロン「池の会」

中央左側が患者会代表の竹島昌宏会長。患者サロンとして、毎日9時～12時まで1階研修室1を開放しています。お気軽にお立ち寄りください。第1, 第3木曜日12時～は患者会の運営に関して話合われる定例会を開催しています。



地域医療センター（まごころ窓口）



がん患者さんやご家族の皆様からの「がん」についてのご相談をお受けするために、「がん相談支援センター」を「まごころ窓口」に設置しています。元看護師のがん相談員や、医療ソーシャルワーカー（MSW）などが無料でご相談をお受けしています。その他、電話相談、メールでの相談もお受けしています。詳細はHPをご覧ください。

おわりに

開院10周年を迎え、「がんセンター」を実体として認識できる整備計画が動き始めました。平成29年度診療開始を目指して、高精度放射線治療（強度変調放射線治療IMRT、Tomotherapy）、PET、外来化学療法室、がん相談支援センター、緩和ケアセンターといった、手術以外のがん治療を集めた「新がんセンター構想」が実現に向け協議が進行中です。さらに、2014年7月からは、胃がん・大腸がん治療ガイドライン制定委員会副委員長を務められ、我が国の消化器がん抗がん剤治療の第一人者である島田安博先生（国立がん研究センター前副院長）をお迎えすることになって

おり、当院での抗がん剤治療もますますの発展が期待されます。

私としましては、本当に「やっと」という感が強いのですが、高知県のがん診療の最後の砦となるべく、充実した機能を備えたものができるよう取り組んで参りますので、今後とも皆様方の多大なるご指導、ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月
高知医療センター がんセンター長
森田 莊二郎

第30回日本救急医学会中国四国地方会 事務局長
高知医療センター地域医療科長 澤田 努



第30回日本救急医学会中国四国地方会事務局長を担当させていただいた澤田です。

本学会の大会長は、当院救命救急センター長の喜多村先生が務められ、2014年5月23日(金)と24日(土)の2日間にわたって高知市文化プラザかるぼーとで開催されました。

学会の参加人数は、5月23日(金)は246名、懇親会154名、5月24

日(土)は261名、2日間の延べ人員は合計623名(実人員は、507名)と中国四国地方のみならず、全国各地から大勢の関係者の皆さまにご参加を賜り、大盛況のうちに無事執り行われましたことをご報告させていただきます。

そして何よりも2日間にわたり、合計152名のボランティアスタッフの皆さまが院内外から厚いご支援・ご協力を賜りましたことを、この場をお借りして改めて心より御礼申し上げます。スタッフの皆さま、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました!

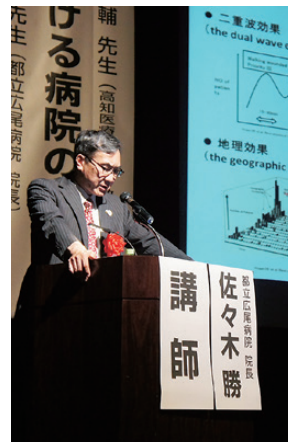
私自身、歴史ある本学会の準備・運営にこのように深く携われる機会を与えていただき、自分自身にとりましても大変に光栄なことであったと共に、オール高知で臨む姿勢をお示しいただきました日赤の西山先生、近森の根岸先生、高知大学長野先生らのお力添えは勿論のこと、当院救命救急センタースタッフの皆さまをはじめ、院内外の数多くの関係者の方々と一致団結をして素晴らしい達成感を味わうことができたことを誇りに思い、かつ心より感謝申し上げます。次第です。



高知県で救急を語る際に、南海トラフ巨大地震を避けて通るわけにはいきません。政府の地震調査委員会からの発表では、今後30年以内に約60～70%の高い確率でM8以上の巨大地震が起こるとされています。そこで、今回のテーマとして、まずは『今、南海トラフ大地震を中国四国全体で考える』とし、実際に南海トラフ巨大地震に対してどう備え、どのような活動が求められるのか、それらはまさに県レベルの活動では十分な対応は図れず、行政や地域住民、消防、警察、海上保安庁、自衛隊、そして我々医療関係者らが各々の垣根を越えた広域かつ多職種の連携(平時より顔の見える関係づく

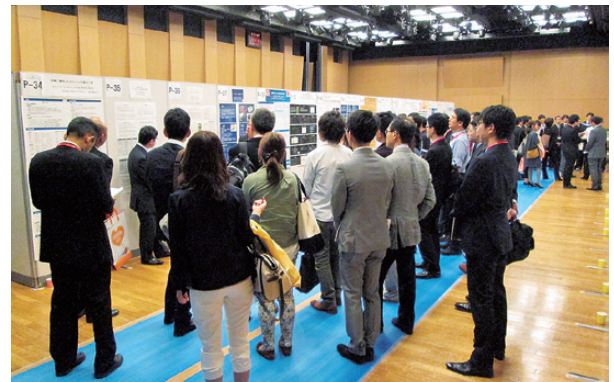
り)を中国四国全体でいかに構築していくべきかについて、活発な議論を重ねていただきました。

もう一つのテーマを『地方が抱える救急医療の問題を皆で語ろう』としました。東京や大阪などの大都会における「都市型救急医療」とは全く違った形の「地方型救急医療」について、その抱える問題点や課題等について皆で大いに語り合うということで、その中でも特に現場の皆さまから関心の高い分野であった医療ICTに焦点を絞って熱く議論が繰り広げられました。高知県としても、今年度中にこうち医療ネットの更新を控えている時期であり、とてもタイムリーな内容で有意義なものとなりました。



その他、特別講演では都立広尾病院の佐々木院長より、各医療機関の間で災害に向けて大きな課題となっている病院BCPについてわかり易く解説を賜り、かつ最新のトピックスについても熱く語っていただきました。その他、現場の方から要望の高かった救急救命士処置拡大などを中心に第1会場のスケジュールを構成致しました。

過去最高!65 演題の ポスターセッション



第2会場では、過去最高の65演題のポスターセッションがエントリーされ、会場を所狭しと埋め尽くす大勢の聴衆の中で活発かつ円滑に発表進行がなされ、多くのカテゴリー別に熱いディスカッションが繰り広げられました。

以上のように盛況かつ無事に本学会を終えられたことは、ひとえにスタッフの皆さま方をはじめ、ご参加いただいた多くの関係者の方々の並々ならぬご支援・ご協力の賜物だと心より感謝申し上げる次第です。最後に、本学会で経験しました感謝の思いを胸に、次期徳島学会での成功を願いつつ、皆々さま方の益々のご健勝とご活躍をお祈りしまして御礼の言葉に代えさせていただきます。

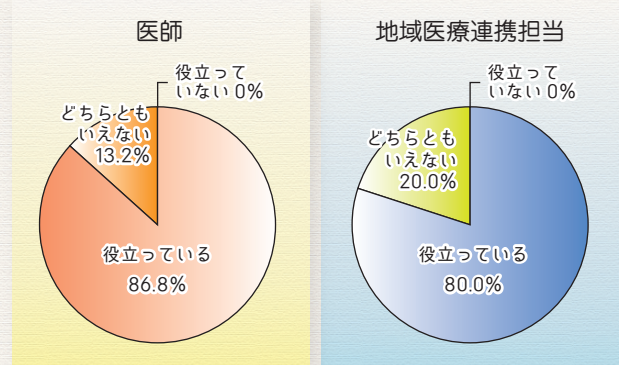
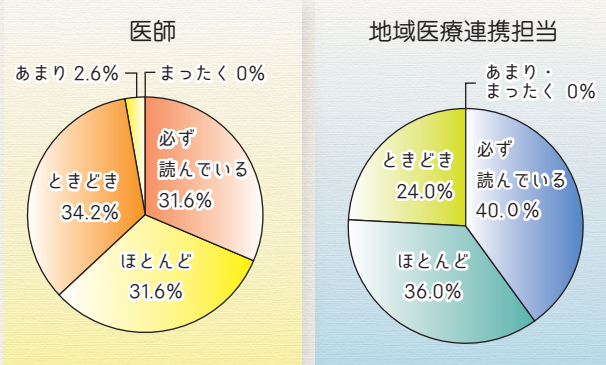
「にじ」及び「ホームページ」についてのアンケート結果発表

この度は、「にじ」及び「高知医療センターホームページ」に関するアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。「にじ」に対する今回のような質問内容のアンケートは2008年(第28号)、2012年(第85号)についてこれで3回目ですが、「必ず読んでいる」と「ほとんど読んでいる」を合わせると、前回85%、前回79%で、今回は医師層で63%、地域医療担当者

で76%と、引き続き多くの方々にお読み戴いていることがわかりました。またホームページ(HP)の閲覧については、初回は「必ず〜ときどき見ている」が26%で、今回は「月1以上見ている」が地連担当で52%と、医師で34%でした。今回、HPを通じた情報発信が、より多数の方から期待されていることも判りました。今後とも、よりよい情報配信に努めたいと思います。

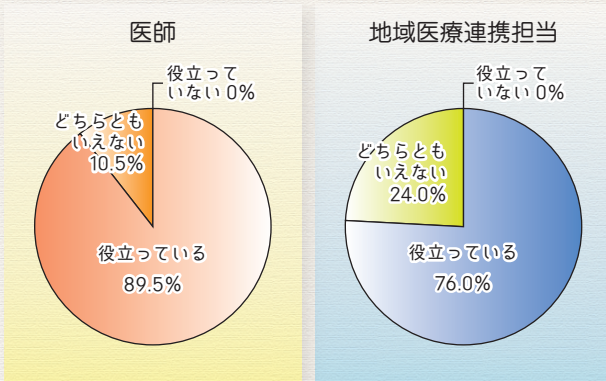
Q.1 にじはお読みになっていますか？

Q.2 地域医療連携に役立っていますか？



Q.3 講演会の案内などの同封文書は役立っていますか？

興味のある記事 BEST5

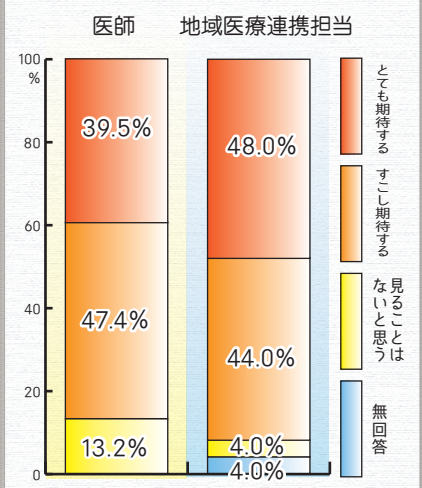
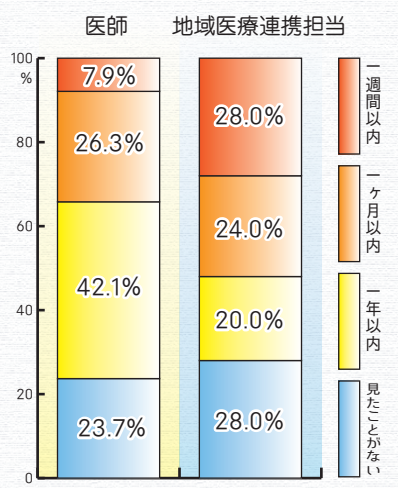
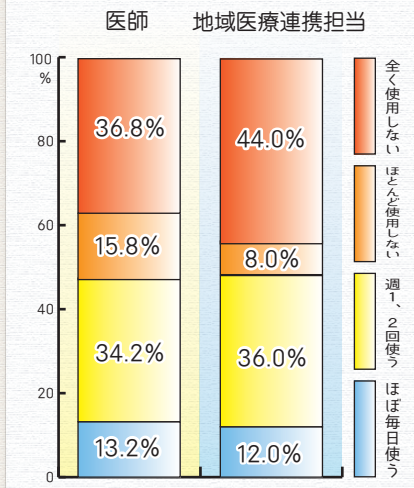


医師	地域医療連携担当
1. 地域医療連携病院のご紹介	1. 地域医療連携病院のご紹介
2. 平成25年度初期臨床研修医のご紹介	2. 救急・災害対応に向けたトレーニングのすべて
3. 『経皮的動脈形成術の経験』循環器内科	3. ~診療現場の今とこれから~
4. 新年のご挨拶	4. 特集 第1回院内メディカルラリー
5. 退任のご挨拶	5. 高知医療センターイベント情報

Q.4 インターネットの使用頻度についてお尋ねします

Q.5 当院のホームページを最後に見たのはいつですか？

Q.6 今後の情報発信の強化に期待しますか？



月	日	曜	高知医療センター イベント情報 7月～			
7月	5	土	地域がん診療連携拠点病院公開講座 （事前申込不要・参加費無料）			
			内容	「肺がんについて」 「肝胆膵外科治療の最前線」 「知っておきたい三つの血液がん」	場所	ゆずはら・夢・未来館 大ホール
			講師	呼吸器内科 科長 浦田 知之 氏 / 消化器外科 医長 岡林 雄大氏 / 総合診療部 部長兼科長 血液内科・輸血科 科長 上村 由樹 氏	時間	14:00～16:30
	お問い合わせ：高知医療センター・経営企画課					
	8	火	第16回 高知医療センター 内科系症例報告会 （参加費無料・事前申込不要）			
			内容	症例報告5題 （※詳細は同封のプログラムをご覧ください）	対象	医療関係者
			場所	高知医療センター 2F くらしおホール	時間	19:00～
	お問い合わせ：高知医療センター・地域医療連携室					
	9	水	高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修プログラム （事前申込要）			
			研修名	「抑うつ状態の患者の看護」	場所	高知医療センター 1F 研修室 2・3
			講師	高知医療センター 精神看護専門看護師 福田 亜紀氏	時間	17:30～19:00
	主催：高知医療センター・看護局 教育担当 申込先 FAX：088（837）6766					
12	土	高知医療再生機構 小児科専門医養成支援事業 講演会 （参加費無料・事前申込不要）				
		内容	「学校検尿の有所見者への対応」	場所	高知医療センター 2F くらしおホール	
		講師	国立成育医療研究センター 腎臓・リウマチ・膠原病科 医長 伊藤 秀一 氏	時間	15:00～16:00	対象
お問い合わせ：高知医療センター・小児科 西内 律雄 TEL：088（837）3000（代）						
13	日	高新・高知医療センターがんセミナー・2014 （参加費要、事前申込要）				
		内容	「乳がんのホルモン療法について」	場所	高知新聞放送会館 8階 81号室	
		講師	高知医療センター 乳腺・甲状腺外科 科長 高島 大典 氏	時間	10:30～12:00	対象
主催：高知新聞社、高知医療センター 協賛：アフラック高知支社 主管：高知新聞企業 お問い合わせ：高新文化教室 TEL：088（825）4322（受講料9,850円/全12回、1,500円/1回）						
24	木	平成26年度 周産期地域連携研修会 （事前申込要・参加費無料）				
		内容	「小児の在宅医療について」（仮） 「在宅小児看護の現状」（仮） 「在宅移行に向けた病院と地域の連携について」	場所	高知医療センター 1F 研修室1・2・3	
		講師	千葉健愛会 あおぞら診療所 高知潮江 所長 松本 務 氏 / 訪問看護ステーションくぼかわ 武内 千枝美 氏 / 高知医療センター GCU 笹山 睦美 氏	時間	13:00～16:30	対象
お問い合わせ：高知医療センター・経営企画課						
30	水	第10回 総合診療科セミナー （事前申込不要・参加費無料）				
		内容	「出生前診断の現代とこれから ～お腹の赤ちゃんに異常があるという衝撃～」	場所	高知医療センター 2F くらしおホール	
		講師	兵庫医科大学 産婦人科 准教授 澤井 英明 氏	時間	18:00～19:30	対象
お問い合わせ：高知医療センター・経営企画課						

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

サッカーワールドカップの熱波のためか例年にも増して暑い夏を予感する中、通算105号となる7月号がやっと形になりました。表紙は今回、再認証ということで星2つを付けていただいた日本医療機能評価機構の認定証です。今回は付加機能として救急機能についても認証を得ています。両認定証の到着とともに、本体評価の具体的内容が評価機構のホームページで公開されていることもご報告しておきます。ご覧いただければ幸いです。

さて本号では本院のがんセンターの「今」と「これから」について、森田 莊二郎がんセンター長がじっくりと書き込んであります。喜多村泰輔救命救急センター長が主催の救急医学会の様子、そして5月号と一緒にお願いした「にじ」アンケート結果のまとめと合わせて是非お読みいただければと思います。（深田順一）



平成26年7月1日発行
にじ 7月号（第105号）
毎月発行

編集者：深田 順一
発行者：武田 明雄
印刷：株式会社高陽堂印刷

発行元：
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL：088（837）3000（代）

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp